

第25回

留学生里親・里子だより

留学生さとおやの会事務局 〒540-8508 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 (株) サクラクレパス内 TEL: (06) 6910-8800
FAX: (06) 6910-8837 HPアドレス: <http://www.craypas.com/satooya/index.html>

2016年9月発行

平成28年度対面の会

—司会席から—

今年度の対面の会は6月25日(土)大阪商工会議所 末広の間で午後2時から行われました。西村貞一代表幹事の挨拶、続いて来賓としてお越しいただいた大阪商工会議所国際部部长齋藤進氏より、会の発展を祈るお言葉を頂戴いたしました。一人一人名前を読み上げ、里親と里子のマッチングをし、親子で記念写真を撮りました。その後は親子ごとにテーブルを囲み懇談会となりました。時折大きな笑い声が聞こえ、時間を忘れるほどにお話が弾んでいるようでした。尽きないお話の続きは次回にご家庭で会われた時にすることにして、歩いて10分ほどにある企業家ミュージアムを大阪商工会議所のご厚意で見学させて頂きました。

今回は開会の前に少し時間を設け里親さんに集まっていただき、簡単なオリエンテーションとして実際どのような交流がなされているのか、まずは西村代表からご家庭での交流の様子を話してもらい、それに続いて各ご家庭での様子を話していただきました。初めて参加される方も、年数を重ねられた方も「そのようなやり方もあるのだ」とご参考にしていただけたところがあったのではないかと思います。

この3月に卒業や就職で大阪を離れた子、帰国した子、彼らと初めて対面した時の事を思い出しつつ、新たな交流の始まりに期待を持った1日となりました。



田仲八重子





私の第二の家族

日本へ来た時、初めて自分で買い物、家賃の支払い、家事をすることになりました。もちろん困ったこともたくさんありましたが、自分の手で自分の未来へ進んで、一人立ちしたような気がしました。

ですが、時間が経つにつれて、新しい経験が少なくなり、留学生活にだんだん慣れてきました。そのうちに少しずつ不安な感じ加わってきました。初めて日本へ来た時に私には計画があって、日本で進学したら将来、非常にいいことがあると強く自信を持っていました。けれども、「本当に大学で何が勉強したいか」については経験や情報が足りなくて、自分より自分をよく知っている人もなくて、「これからどうしたらいいか」と悩んでいました。その時、ホストファミリーの募集がありました。

経験や情報を十分持っている日本人と仲良くなったら、きっと遠慮せずに悩みなどをすっかり話し合えると思って申し込みました。自分の家族と同じように兄弟が多くて、奥さんはピアニストでした。(私もピアノが大好きなのです!)その上、ご主人はオペラ歌手で、今まで出会ったことのないような人でした。お祖父さんはアメリカへ何回も旅行に行っていて、お祖父さんと話すときちょっと懐かしい感じがしました。今考えると多分当然ですが、日本に来てから恋しく思っていたのは家族と一緒にいる楽しさでした。私は日本で一流の大学に進学できなかったら、日本へ留学してきたことや両親出してくれたお金が無駄に

なるのではないかと考えていましたが、ホストファミリーに会って、そうじゃないと分かってきました。一流大学に合格できなくても悪いことではなく、国立大学に進学できるかどうか悩んでも、できるだけ一生懸命頑張って自分の進路を探すという経験は別に恥ずかしいことではなく、両親は必ず喜んでくれると思えてきました。

何があっても私の家族と私の第二の家族が私のためにいますから、悩む理由はありません。今は私のホストファミリーのお陰で、自分ができるかぎりのことをするというには、何も恥ずかしい理由がないということがわかりました。そして、あれこれ悩まずに留学生活を過ごせるようになりました。もし問題や質問があったら、親切に手伝ってくれ、手を差しのべてくれる里親に恵まれたので何の心配もなくなりました。



留学生のアンケートより ～ どんなことがしたいですか? ～

お料理

一緒に食べたい



教えて欲しい

教えたい

一緒に作りたい

文化

お祭りに行きたい

自国の事を教えたい

体験したい

文化交流したい



日本の日常生活を知りたい

聞きたい 学びたい

本にはないことを学びたい

旅行

色々なところに行きたい



遠足に行きたい

一緒に旅行したい

歴史あるところを観光したい

その他交流

一緒に歌を歌いたい

会いたい

日本人の友達を作りたい



漫画の事を話したい

日本語で話したい

日本と繋がりたい



里親との出会い

私は2010年4月に日本に来て、留学生生活を始めました。日本語学校であった大阪大学日本語日本文化教育センターを介して留学生さんとおやの会に参加させて頂き、里親である田仲さんと出会うことができました。6年経ちましたが、初めて田仲さんの家に誘われた日は昨日のように覚えています。そのとき私は日本に来たばかりで簡単な言葉しかしゃべれなくて、一人で電車に乗るのも初めてであったためすごく緊張しました。電車を乗り間違えないかな、日本語が話せないのどうやって過ごすんだろうか、と色々不安を抱きながら高槻市駅にたどり着きま



撮影：Phạm Minh Quang

した。しかし田仲さんの優しい顔を見た瞬間、安心しました。そして、田仲さんの家族も皆は優しく、私を家族の一員として接して下さって、美味しい食べ物をいっぱい食べさせ

てくれました。異文化に触れることで自分をさらに成長させることを目的とし、日本に留学した私は文化が違って、言葉が通じなくても、人と人のつながりの温かさは変わらないということ



撮影：Phạm Minh Quang

をよく実感できました。その後しょっちゅう食事やガーデンパーティーに誘われ、多くに留学生の友達ができ、多く日本人の方とお話できました。田仲さんの家をお邪魔するたびに優しさや温かさを感じて、里親として田仲さんがついてくださっていることが心強いです。

里親(田仲八重子)からひと言

6年前に始めて阪大のホールで出会った時、私は私で「英語しか通じない、どうしよう」私が片言の英語で話すのですが、あまりにも下手なので、ついに「日本語でいいです」と言ってもらったのを覚えています。そんな出会いでしたが、こんな文章を書けるようになって、うれしく思います。

スウィット カルヴィン (インドネシア)



私はインドネシアから来たスウィットカルヴィンです。今大阪日本語教育センターで日本語を勉強しています。来年専門学校に進学してコンピュータを専攻することになっています。

このプログラムに参加して、楽しい経験ができています。私は毎月家族

と一緒にホストファミリーのうちで夕食をしています。お母さんに日本料理だけでなく、エスニック風料理も作ってもらったり、時々私やほかの里子がお母さんの料理のしたくを手伝うこともあります。その食事の時に、日本語をよく話して、少し日本語の力が上がったように感じます。そして、ホストファミリーのみんなが優しく、私達里子は遠慮なく話すことができます。食卓で私達の日常生活から最近起こったことまで話していると、里親と里子の距離がだんだんなくなっていくように感じます。本当に親切にしてもらっています。日本でたまにホームシックになることもあるけれど、このプログラムのおかげでそんな気持ちが軽くなります。

これからの交流も楽しみにしています。次の十月と一緒にグリオピアとカワサキワールドに遠足に行くことになっています。そして、正月には日本語学校で全部の里親の家族と一緒にパー

ティーが行われます。私はそこでお母さんに国の歌を演奏するように頼まれたので、頑張って練習の準備をしています。

ホストファミリーには本当にお世話になって感謝します。このホストファミリープログラムのおかげでいろいろ経験し、学んだことをこれからの私の留学生活、そして将来に役に立てて行きたいと思っています。



里親・里子

里親：比嘉松子（大阪市）

毎年里子との出会いを楽しみにしている私ですが、1年限りで連絡が途絶えてしまう子供、そして5年6年も続いている子供もいます。その間私は孫を持つことにもなりました。とても幸せ感を味わさせて頂いております。

さて、今回3年前に里子となったモンゴルの女性との絆をお話したいと思います。彼女は通称イチコと申しまして、背が高く笑顔がとても可愛く素直で、更にその上、頭の回転が速く気配り・気働きが出来て、私はいつも圧倒される日々でした。こんな素晴らしいお嬢さんをどのように育てられたのか関心が深まるばかりでした。ですが、後にモンゴルからご両親が来られお会いして納得が得られました。

彼女はモンゴルで大学卒業後日本にやってきましたが、出会いの初めは日本語はほんの少しだけといった状態で、私は仕事柄（日本学校勤務）学生には日本語をゆっくり手を使いながら話すようにしています。彼女はわからずともニコニコと笑顔で返す様子でした。ところが3ヶ月後ぐらいになりますと、聞く・話す、の上達ぶりに驚きの連続でした。漢字圏以外の国の方の日本語の難しさは日本人の私達には十分に理解する事が難しく思います。会話ができるようになりますと先ず彼女に将来の夢を語らせました。これからの進路はどうなるのか、私が一番の関心事でもありました。

そして彼女は無類の勉強好きで、将来のための勉強を毎晩図書館通いで夜遅くまで努力の日々でした。普通親は子供に対して「勉強しなさい」ですが私は見るに見かねて、たまには勉強を休みリフレッシュした方がよいのではと、街に呼び出し、食べ歩きなど良くしました。実は私は勉強以外で話す機会が欲しかったのです。彼女の夢を語った中に、現在どのような歩き方をしているか進路の選択が間違っていないか、チェックする必要があったからです。おせっかいだと非難されるかもしれませんが、留学といったお金と時間を無駄にしないためにも色々な体験をし、世の中の見聞を広め感性を磨くことを願っておりました。彼女の素直な性格がそうさせたのか、ベテランの進路相談の方からの指導を受け2大学の合格を得て、現在勉強に又得意とする英語でのデイバート国際大会などに参加、活発な学生生活をエンジョイしているようです。

これからも益々グローバルな社会における人との交流は、国境の垣根を取った異文化を理解し自然体でのコミュニケーションが必要に思います。特にこれからの時代を背負って立つ若い人達の支援をしたいものです。



里子：ichnk horlooo ayursed
（日本での通称：イチコ 25歳 モンゴル）

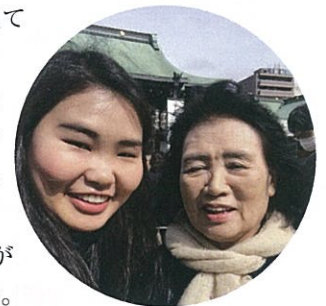
私が初めて留学で来たところは、日本の文化を最も表している大阪です。来日して以来もう3年経ちました。勉強で忙しい毎日ですが、頭をリフレッシュするため、この間は、色々なところへ行ってきました。どこへ行っても大阪のような心の温かさを感じるところが、どこにもないという思いが強くなってきました。場所の名前が違っていたが、大阪のようにみんなが一所懸命働いているのになぜそんなに感じるのだろうかと思いました。大阪では他のところにはない宝物があります。それは、私の里親でいらっしゃるお母さんです。

日本語を勉強し始めた4ヶ月目の時、お母さんと初めて出会いました。お母さんと色々な話をして、お母さんの好きなこと等、知りたかったが日本語の能力が足りなくて困っていました。お母さんと話すとき辞書で言葉を探したり、ボディーランゲージュを使ったりして通じていました。だんだん辞書も使わないように話したくて勉強に力を入れていました。お母さんは私の日本語に限らず人生の先生になって下さいました。

留学して以来、いろいろなことに挑戦して、いい日もあれば、よくない日もありました。良くない日々がつづくとその時は帰国したいという気持ちが強くなってしまいましたが、その時、お母さんはいつも私のことを応援してくださったので負けずに頑張ってきました。お母さんは私より良い明るさで何のことでも努力する姿を見ると、私もお母さんのようになりたいと頑張ろうと思って参りました。

今は東京の大学で好きな勉強とアルバイト、そして国際交流各イベント活動に積極的に参加し動き回っています。

お母さんいつも見守って頂きありがとうございます。心から感謝しています。



編集 後記

今回の対面の会では里親さん対象にオリエンテーションを開催しました。会についての説明、諸注意の後、それぞれの家庭での受け入れについて一言ずつご紹介いただきました。あんなこと、こんなこと皆さんのご参考になれば嬉しいです。今年は42名の留学生の方々を受け入れました。留学生にはまだまだたくさんの希望者がいらっしゃいましたが、受け入れ可能な里親さんが少なくこの数となりました。是非、皆様のお知り合いの方々

に興味をお持ちの方をご紹介ください。ご希望によりその都度対面をしていただくことも可能ですので、よろしくお願いたします。

今年度の行事として、遠足、新年交流会と続きます。今からスケジュールに入れて、是非ご参加いただきますようお願いいたします。特に新年交流会のご家族毎の出し物については、今から計画、練習頂けると幸いです。そんな経緯などについても、会報誌にもどんどん投稿いただきますよう、重ねてお願いたします。

（事務局）